

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ) 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	有限会社 コミュニティさっぽろ グループホーム みんなの家(はまなす)	評価実施年月日	平成22年2月15日 ~ 2月26日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名	前田 叔亨	記録年月日	平成22年3月1日 ~ 3月5日

北海道

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p> <p>会社全体の理念と、グループホーム職員全員が集まり介護する上での目標として、時間を十分掛けて話し合い作り上げた理念がある。しかし、前回の外部評価で「ホーム内の状況の変化と地域関係を含めた見直しの検討が必要」との意見を頂いたが、それは実施されていない。</p>	○	<p>理念作成から5年経過し、ホーム内の状況の変化もあるので理念の見直しを検討したい。また、地域との関係性を重視した項目も盛り込んだ理念も検討する。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>スタッフルームに掲示。常に理念を念頭において、職員全体が日々のケアサービスを行っている。新入社員に対しても、理念の説明をして理解を深めて貰っている。</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らしていることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p> <p>各ユニットの入口に理念を掲示している。家族へは入居時に説明させて頂いている。会社主催の夏祭りでは、地域の方々に会社の理念を理解して頂き運営を協力して頂いている。また、ホーム見学は随時受け入れており、その際に理念を説明させて頂いている。</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p> <p>冬季以外はほぼ毎日散歩しており、近所の方と会話したりしている。冬期間でも玄関で空気を吸う事もあり、近所の方と挨拶をしたりしている。</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> <p>町内会に加入し、地域での行事(盆踊り、夏祭り)に参加。事業所の隣の公園を利用して、会社主催の夏祭りを毎年行っており、地域の多くの方々に参加して頂き交流を深めている。</p>		
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> <p>地域の方々に向けての介護相談の窓口になっている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>自己評価は自分たちが行っている業務を再確認できる機会となり、外部評価は第三者の視点で業務、考え方を点検して頂けるため業務を見直す機会となっている。評価の結果は職員間で話し合い改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回、定期的に行っている。その中で、入居者の日常生活の状況や行事について報告を行い、意見・助言を頂き活かしている。しかし、昨年の外部評価で指摘された、「テーマ設定の工夫」「メンバーの拡大」はされていないのが現状である。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>市や区の担当者とは、困ったことや分からない事について相談にのってもらっている。また、運営推進会議のメンバーでもある包括支援センターの担当者さんとは、ターミナルケアについても意見交換する機会を持つ事が出来た。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>現時点では成年後見制度などを利用している入居者はおらず、学ぶ機会もあまりなく、具体的な内容の知識は不十分である。</p>	○	現在は制度を活用している入居者はいらっしゃらないが、制度を理解する事は必要であり、これから学習の場を作って行きたい。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>当ホームでは、虐待は行われていないと思われる。虐待に関して学習会を開き、管理者及び職員は虐待に関して知識が深まったと思われる。</p>	○	学習会の開催は行ったが、不定期で1度しか行っていない為、定期的な開催を検討する。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>契約を結ぶ時は契約書を読み上げながら説明して、不明な点などを確認しながら行い、理解・納得して頂いて署名を頂いている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者は、苦情や不満等はその都度直接職員に訴えてきている。しかし、特別に苦情等を訴える場や機会は設けていない。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	2ヶ月に一度、広報を各ユニットで家族に送付すると共に、面会時には暮らしぶり、健康状態等を報告。健康状態に変化がある場合は、その都度連絡を入れる。職員については広報を通して退職の報告、新入社員についても広報で紹介して面会時に改めて紹介している。また、広報は各ユニットのホールに掲示し、面会に来られたお客様もホームでの生活が分かる様にしている。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	事業所として1階玄関に意見箱を設置してあるが、利用されている様子がみられない。新たに各ユニット玄関前に意見箱を設置したが、当ユニットでは使用された事例はない。	○	3階の意見箱は分かりやすい場所に設置してあるが、広報などでも告知して気軽に利用できる様に働きかけていく。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的に月に1回、ほぼ全員参加の会議を開いており、職員に自由に意見を出してもらっている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	突発的な出来事に関しては、各ユニットの職員だけではなく、運営者・事務担当者の援助を借りている。前もって予定されている事柄に関しては、職員と話し合い必要な人数の調整を行っている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	話しやすく働きやすい職場作りに努めている。やむをえず異動・離職者がいる場合は、早めに新入職員を採用する様にしている。「新入職員が個々の入居者を理解して接するようになる」事と「入居者が新入職員になれる」事が出来るまでは、体制にゆとりを持って関わり、入居者へのダメージを最小限に抑える様に気を付けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>外部研修は、その都度職員に案内し、積極的に参加を促している。研修終了後は、参加者の伝達学習で職員間の学びとしている。また、特に管理者研修や実践者研修に関しては、年度初めに計画を立てて職員に参加してもらっている。</p>	<p>○</p> <p>ここ1年間で内部研修は行われていない。内部研修を見直して行きたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>研修会や各管理者会議などで情報交換を行い、質の向上に活かしている。しかし、相互訪問は出来ていないのが現状である。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>普段から話しやすい雰囲気を中心掛、何でも話せる関係になっていると思われる。時には場所を変えてリフレッシュしての交流も行っている。</p>	
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>スタッフからの意見・要望は必ず聞き、職員全体で検討し、方向性を示すようにしている。集団としての取り組みを評価、さらに各自が達成感・向上心を持って働けるように支援している。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前に、ご本人・ご家族と面談し、不安・悩みを傾聴する。また、施設等に入床されている方には、その職員とも面談し、生活状況を確認する。ホームの見学も事前に行ってもらい、安心して入居出来るように配慮している。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前にホーム見学をして頂いて情報収集を行いながら、これまでの家族の関わり、悩み・不安などを傾聴し、安心して入居を考えられる様に話し合っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前の面談の際に、家族・本人がどのような希望があるか確認し、それに対するケアの方向性を検討しながら進めている。病院等に入院されている方は、スタッフからも情報を得ている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前の面談と、訪問・見学は積極的に来て頂ける様に勧め、本人や家族にホームの雰囲気を感じて頂き、少しずつ職員や他の入居者に馴染んで頂ける様に努力している。情報だけにとらわれず、スタッフ全員で利用者さんの生活を確認し、サービスを開始するように心掛けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	ユニット内の雰囲気は、「生活の場」という感じで職員も入居者も一緒に楽しんだり笑ったりしながら生活を送っている。日常的に昔の話を聞いたり、料理や行事的な習慣の事を入居者から教えて頂く事も多い。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会の時は必ずホームでの生活の事は伝え、その上で家族の意見や要望等も伺っている。家族からも面会時や外泊時の本人の様子を聞き、介護の参考にしている。行事の時は、家族に参加して頂き、本人と一緒に楽しい時間を過ごして頂いている。広報でも日常生活を伝えている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人又は家族から話を聞き、家族関係を把握するように努めている。面会や宿泊は自由にして頂いており、家族が何か気になる事があった場合に、話しやすい雰囲気作りに努めている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	時々ではあるが、友人や知人が尋ねて来られる事がある。自室に電話を取り付けている入居者もおられ、家族や友人と会話を楽しむ光景が見られる。知人から手紙が届く事もあり、楽しまれている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	1人で自由に過ごせる時間もあるが、体操やレクリエーション等は多人数が参加し、入居者同士楽しんでいる。また、食卓テーブルにて入居者やスタッフが一緒に会話を楽しんでいる。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	1人の入居者が退去されているが、その後、その方は亡くなられ家族も関わりを必要とされていない為、現在は関係はない。	○	サービスの終了に関わらず、必要とされる入居者に対しては関わりを継続していきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	声掛けして了解を得てからの援助を基本とし、日常生活全般において本人の希望を確認・尊重して、それに沿って援助している。しかし、本人が好まない事で職員が必要と思われる事(服薬・口腔ケア等)は、アプローチを変えて本人が納得して頂ける様に働きかける。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人や家族、又、施設や病院に入居されている方に関しては職員から、話を聞いてアセスメントを行い、これまでの生活の把握に努めている。センター方式の取り入れも考えているが、現状では取り入れていない。	○	月に2回、センター方式の勉強会を開き、センター方式導入に向けて準備を行っている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	心身の状態を記録に残すようにしている。一日一頁の記録用紙で、食事や排泄、夜間の状況まで確認出来、その状況に合わせ自分のペースで生活を送れる様に支援する事に努めている。しかし、個々の現在出来る事に関しては理解しているが、過去と比較するものが無く記録用紙を遡るしか方法がなく、センター方式の導入を視野に入れている。	○	可能な限り早くセンター方式を導入し、個人個人の変化を把握しやすい様に努めたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	月に一度の会議の中で、各ユニットごとの職員間での話し合いを元に作成している。家族の意見を伺い盛り込む様にしている。会議の時に介護支援専門員にも参加して頂き、助言を得ている。これからはセンター方式を活用して、アセスメントの強化を図りたい。	○	可能な限り早くセンター方式を導入し、アセスメントの強化を図りたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>		
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	○	<p>スタッフがケアプランを確認しやすい場所に保管し、ケアプランを確認しながら記録を残せる様に気を付ける。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>		
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p>	○	<p>他ユニットで社協等のサービスを受けた経験があり、その他のサービスも含めて利用出来るサービスを色々と検討していきたい。</p>
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>		<p>現在、必要としている入居者はいないが、協働できる関係は出来ていると思う。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。</p> <p>月2回の訪問診療を受けており、担当看護師とは24時間連絡が取れる様になっており、小さな変化でも気兼ねなく相談出来る関係になっている。訪問診療の母体病院へもスムーズに相談・受診出来る体制になっている。訪問診療以外の科への受診希望に対しても対応している。</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p> <p>管理病院の医師が認知症の理解があり、色々と相談に乗って頂いている。治療についても対応が可能である。</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p> <p>医療連携体制加算を行っている。週1回訪問看護があり、毎日の生活状態を伝え相談に乗って頂いている。また、訪問診療の看護師とも24時間連絡が取れる様になっている。</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p> <p>入院した際には頻回に面会をして入居者の状態を確認すると共に、入居者に馴染みの顔を見て頂いて少しでも安心出来る様に努めている。また、認知症の悪化を防ぐ為に、可能な限り早期退院出来る様に、病院と密に連絡を取り情報交換や相談に努めている。</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p> <p>入居契約時に、重度化した場合と終末期ケア対応指針の同意書をご家族に説明を行い、サインを頂いている。重度化した場合は、医師からの説明を家族と共に受け、その上で家族の意向を聞き、終末期に向けての相談をする方針である。</p>	○	終末期のケアについては、職員は「最期まで関わりたい」という意見で統一されており、家族の希望があれば当ユニットでも終末期のケアも関わって行きたい。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p> <p>現時点では、当ユニットでは終末期のケアを行った事例は無いが、終末期の勉強会を開いたり、他ユニットの終末期のケアの様子を聞いたりして、理解を深めている。</p>	○	勉強会を開いて理解を深めているが、1回だけではなく定期的に関き、さらに理解を深めて行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	これまで退去となった事例は病院への転院が1件あるが、書面等で病院のスタッフに伝えていた。	○	事前に情報を先方の知らせた上で面会の場を設け、本人と直接会って頂く等して、より詳細に情報交換出来る様に努めて行きたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	入居契約時に個人情報を使用する際の同意書を頂いている。職員からも個人情報の保護に関する契約書をとっている。個人個人の生活歴を十分に考えて声掛けを行い、排泄誘導時には特に注意を払って声掛けをしている。また、入居者の居室に入る際にもノック・声掛けを忘れずに行う。個人の記録は決められた場所に保管し、入居者の目に触れない様になっている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	本人の認知度や身体の状況に合わせて、声掛けをする向き(聴きやすい耳から)に注意したり身振りを交えるなどして、なるべく分かりやすい様に説明している。本人が自己決定出来る様に、個人個人に合わせて職員が援助し、無理強いないで待つ姿勢で援助している。		
52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	1日の生活は大まかな流れはあるが、入居者の状態を見て出来るだけ希望・ペースに合わせて、その人らしい生活を送れるように支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	服装に関しては基本的に本人を選んで頂く様にしているが、認知度に合わせて職員が選び易い様に支援もしている。理美容は定期的に出張をお願いしているが、希望時には本人が望むお店に行ける体制が取れている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	野菜の皮むきやもやしのヒゲ取り、ゴマすり等の食事の準備を手伝って頂く事があり、生き活きと活動されている。下膳や食器拭きを積極的にして下さっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	病状によりお酒を飲めない方もいらっしゃるが、それ以外の方には年に数回、お祭りやスタッフが開催する居酒屋等でお酒を楽しんで頂いている。おやつ・飲み物に関しては、それぞれの好みを聞きながら、身体の病状に応じ楽しんで頂いている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄の時間を記録するシートを利用し、一日を通しての排泄パターンやサイクルを把握してトイレに誘導し、気持ちの良い排泄をして頂ける様に支援している。また、毎朝に牛乳やヨーグルトを勧めて、下剤等を使用しないで自然に排便がある様に取り組んでいる。夜間は念の為にリハビリパンツや尿パッドを使用するが、定期的に声掛けをしてトイレ誘導している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	基本的に入浴は3日毎に勧めているが、それも本人の希望に合わせて行い、身体の状態により毎日入浴(又は下半身浴、清拭)を勧めている入居者もいる。拒否がある時は、スタッフを変えたりタイミングを変えたりして、気持ちよく入浴して頂ける様に支援している。また、本人の希望により、2日に1回のペースで入浴される入居者もいる。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	個人個人のペースに合わせて、休息を取って頂いている。日中に居眠りをされている時は、短時間でも自室にて休んで頂くようにしている。夜間に眠れない時は、飲み物を勧めたり会話をするなどして、気分が落ち着くように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	居室やホールの掃除、洗濯物たたみ等、今まで慣れ親しんできた生活をして頂き、張りのある生活を送っていただいている。トランプやカルタ、黒ヒゲ危機一髪等のゲームや、季節に応じた絵馬作りや七夕の短冊作り等の行事にて、楽しんだり気分転換が出来る様に支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご本人が管理できる場合は、家族・本人と相談して小額にして頂いている。管理できない場合は小銭を預かり、買い物時に本人に渡して買い物を楽しんで頂く様にしている。その際のレシートは保管して、家族が確認出来る様になっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	一人ひとりの希望に添って、買い物や選挙の演説会など、出来る限り支援している。夏には外で流しソーメン、焼肉、チャンチャン焼きを2ユニット合同で楽しむ様にしている。散歩も本人の希望に応じて行い、冬期間で足元が不安定な時は玄関先で空気を吸うなどしている。また、ユニットでの対応が困難な場合は運営者を含めて支援している。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	外出の希望を聞いているが、「買い物」や「散歩」等がほとんどである。その為、年間を通して楽しんで貰う為に外出行事を考えており、季節に応じた行事(初詣、お花見など)を企画している。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望がある場合はその都度事業所の電話を使用して頂いている。ダイヤルが困難な方には代わりにダイヤルし、知人や家族と会話出来る様に支援している。手紙や葉書が届く事もあり、大変喜ばれている。また、それぞれの居室に電話が設置出来る様になっており、設置されている方は家族や知人と会話を楽しまれている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	入居者の活動時間(6:00~21:00時)の面会は自由であり、家族や友人等気軽に来て頂いている。来所の際にはお茶や茶菓子をお出しし、ゆっくりと過ごしていただける様に配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	昨年の外部評価以降、ユニット会議の時に身体拘束の学習を行い、職員全体で身体拘束に関する知識を深めた。また、各ユニットの入り口に身体拘束排除の理念を掲げ取り組んでいる。	○	身体拘束に関しての勉強会を開催したが、一度だけではなく定期的に開催し、より知識を深めて行きたい。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室に鍵は付いておらず自由に入出りできる。また、ユニットの玄関は自動ドアで、ボタンを押すと開く仕組みになっている。入居者・家族は自由にドアを開け、出入り出来る様になっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中は職員が同じ場所にかたまらず、一人が必ずホールに留まり全体を見渡せる様に心掛けている。その場を離れる際には他の職員に声掛けをして、注意を促す様になっている。夜間は定期的に居室を訪問し安眠・安全を確認しており、夜間に記録を書く場合はホール全体が見渡せる場所で記録するように心掛けている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	少人数ではあるが、認知症の状態に応じハサミを本人管理している入居者もおられる。内服薬は基本的にスタッフルームで管理しているが、湿布や塗り薬は入居者の希望や状態に応じて本人が管理している場合もある。包丁は台所下の扉の裏に保管しているが、職員の薄い夜間は箱に入れ、入居者の手や目の届かない場所に保管している。洗剤は脱衣所の目の届かない場所に保管している。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	転倒の危険が高い入居者には、離床センサーを使用して転倒の危険を減らす様に工夫している。事故が起きた場合は、朝・夕のミーティング時に職員に伝え情報を共有しており、月一回のユニット会議でも検証して、以降の防止について話し合っている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	不定期ではあるが学習会を行い、マニュアルも作成して職員がいつでも見れる場所に保存してある。しかし、応急手当の定期的な訓練は行っていない。	○	訓練は行ってはいるが不定期である為、定期的な訓練を行ってきたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年に2回防火訓練を行い、入居者さんも一緒に参加して避難方法や通報の仕方を繰り返し練習している。しかし、夜間想定訓練は行っておらず不安がある。緊急時に協力して頂ける様に、事業所向かいの24時間営業のガソリンスタンドをお願いしている。また、火災通報を押すことで、消防署と事業所周辺に住む職員に連絡が入るシステムを導入した。	○	夜間想定訓練をしていない為検討する。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	家族の来訪時や急なADLの変化があった場合は、その都度本人の状態を伝え、少しでも可能性のある危険を説明し、ホームでの援助方法等を家族と十分に話し合い了解を得ている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	表情や動作又はむくみ、食欲などの変化を見逃さないように注意して、異変があった場合はバイタルチェックして記録に残し、朝・夕のミーティングで話し合い情報を共有している。また、異常がみられた場合は、訪問診療担当看護師に連絡し、受診等の指示を仰いでいる。また、医師の指示により、毎日血圧測定する場合もある。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	1人1人のファイルに処方内容を保管し、職員がいつでも確認出来る状態になっている。薬の変更や追加の際には、朝・夕のミーティング時に効能と共に伝えると共に、連絡ノートにも記載し情報を共有している。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	水分摂取量をチェックして記録し多く摂って頂くと共に、毎日の体操や散歩で身体を動かして頂き、便秘の予防と改善に努めている。また、朝に牛乳やヨーグルトを摂って頂いて、便秘が解消出来る様に工夫している。医師とも相談して、場合により下剤でのコントロールもしている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、全員に歯磨きを促し、歯磨きが不可能な入居者に対しては、介助にて口腔内の清潔を保っている。義歯は夜間に洗浄剤につけて、殺菌・消毒を行っている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	野菜を中心に献立を作成している。食事が少ない入居者に対しては、本人が好んで食べて頂ける様に工夫したり(小さく切る、少量ずつ小出しにする等)、スタッフが声かけをしながら召し上げて頂いている。また、入居者の状態により、とろみ食やお粥などを提供させて頂いている。水分は全員分チェックしており、水分摂取に拒否がある方については、水分を少しずつ出したりゼリー等を勧めたりし、1500mlを目安にしている。	○	1日のカロリー摂取が把握出来ていない為、栄養士さんのカロリーチェックを検討している。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルを作成。外出後には職員、入居者共に手洗い・うがいを徹底して行っている。面会者にも、オスバン消毒液にて手指を消毒して頂いてから、入室して頂いている。トイレ・手すり・ドアノブは毎日消毒し、便失禁や嘔吐があった場合はその都度消毒しており、その際は次亜塩素酸ナトリウムを使用して、感染予防に努めている。インフルエンザの予防接種は、入居者・職員全員が受けている。新型インフルエンザは入居者さん全員接種している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理用具(包丁・まな板)及び、台所・調理台は毎日除菌消毒を行っている。冷蔵庫も週に1回、掃除除菌を行っている。 買い物は、基本的に2日に1回近くの買い物に行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	1階玄関のインターホンに表札を掲げているが、寂しい感じがある。エレベーター内に、各ユニットの入居者の写真を貼ったり、入居者が作成した絵馬や短冊等を飾って、暖かい雰囲気作りに努めている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ホールの掲示板に行事(誕生会・外出等)の写真を貼ったり、季節に合った飾りつけ(正月・十五夜・ひな祭り・七夕・クリスマス等)をして、その季節の雰囲気を感ぜられる様に配慮している。また、隔月発行の公報も掲示し、入居者が閲覧できる様にしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ホールの各所にソファーや長イスが配置されており、自由にそのイスを使用する事が出来る。入居者同士でソファーにて会話したりして過ごされている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居の際に本人・家族と相談しながら、仏壇やTV・タンス等の使い慣れた物を持参して頂き、居心地の良い生活空間になるように努めている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎朝の掃除の時間等に居室やホールの窓を空け、換気に努めている。ホールに温度計・湿度計があり、それを確認しながら加湿器を使用したり、濡れたタオルを干したりして乾燥しすぎないように注意している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	フロア全体がバリアフリーになっており、ホールやトイレに手すりも付いており入居者が本人の状態に合わせて、可能な限り自立で移動や排泄等を行える様になっている。浴室や脱衣所にも手すりが付いており、さらに浴室の床は滑りにくい素材を使用して、転倒の防止に努めている。入居者さんの状態の変化に応じて、その都度新しく手すりを設置している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレには「トイレ」という表示を付け、各居室には入居者さんの表札を張り、混乱や不安を少なくする工夫をしている。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	建物周辺には狭いながらも野菜を植える家庭菜園があり、トマトやナス等を植えて散歩の途中に観察したりしている。ベランダは春や夏には鉢植えを置いてお花を飾り、冬は雪だるまを作って帽子やマフラーを飾ったりして楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ① 毎日ある <input checked="" type="radio"/> ② 数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③ たまにある <input type="radio"/> ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input checked="" type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての家族 <input checked="" type="radio"/> ② 家族の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 家族の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ① ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ② 数日に1回程度 <input checked="" type="radio"/> ③ たまに <input type="radio"/> ④ ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている  <input checked="" type="radio"/>②少しずつ増えている  <input type="radio"/>③あまり増えていない  <input type="radio"/>④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p><input checked="" type="radio"/>①ほぼ全ての職員が  <input type="radio"/>②職員の2/3くらいが  <input type="radio"/>③職員の1/3くらいが  <input type="radio"/>④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p><input checked="" type="radio"/>①ほぼ全ての利用者が  <input type="radio"/>②利用者の2/3くらいが  <input type="radio"/>③利用者の1/3くらいが  <input type="radio"/>④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p><input checked="" type="radio"/>①ほぼ全ての家族等が  <input type="radio"/>②家族等の2/3くらいが  <input type="radio"/>③家族等の1/3くらいが  <input type="radio"/>④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

・当グループホームに入居される前は転倒を繰り返していた方がいるが、離床センサーの使用やナースコールの工夫により転倒が減少した。  
 ・要介護5の入居者が1人いるが寝たきりにはしないで、日中は離床して頂き他の入居者と一緒に過ごせる様に支援している。他の入居者もこの方に色々気を使って頂けている。